

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第4回 環境部会	
日時	平成22年11月26日（金）午前9時30分から午前11時30分	
会場	長野市役所第一庁舎8階第一委員会室	
出席者	作業部会員 (敬称略)	井出 靖、志村雅由、山口智子、越 洋子、小山 明、清水久美子、高木亜矢子、堀池政史
	関係課員	環境衛生試験所、環境政策課、廃棄物対策課、生活環境課、清掃センター、衛生センター、農政課、農業土木課、森林整備課、観光課、河川課、公園緑地課、農業委員会事務局、配水管理課、サービスセンター、浄水課、業務課、下水道建設課、下水道施設課、企画課（事務局）

会議次第

- 1 開 会
- 2 市民フォーラム21 第3回 環境部会 会議概要について
- 3 ワークショップのまとめについて
- 4 本日の日程等について
- 5 ワークショップ
テーマ：政策2 - 1 豊かな自然環境の保全と創造
- 6 その他
(1) 今後の予定について
- 7 閉 会

会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 ワークショップのまとめについて
「政策2 - 2 資源が循環する環境共生都市の実現」をテーマにワークショップで検討した意見を資料1のとおりまとめることで確認した。（第3回 環境部会 11月12日開催）
- 5 ワークショップ
テーマ 政策2 - 1 豊かな自然環境の保全と創造
2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。

水環境

下水道の整備が進み、河川等がきれいになった。

地域でホタル生息地などを増やす活動が増えている。

メダカ、カニ、ゲンゴロウなどが生息できる水辺を保全する。

観光(自然)

自然保護に対する市民意識が希薄である。

飯綱高原は都市計画区域となり、良好な開発がされている。

閉鎖スキー場などの自然復興にかかわる人達が出始めている。

自然資源の観光資源としての評価が低く、その対策もされていない。

アウトアプームで多くの人が自然に触れ合う機会が増えている。

外来種

外来種がはびこっている。(例 ニセアカシア、セイタカアワダチソウ)

外来種の啓発をしていく必要がある。

外来の動植物がいたる所で見られる。

協働

住民自治協議会など身近な者での環境活動に期待する。

ながの環境パートナーシップ会議を知らない人が多い。

アジェンダ21ながのの13の行動プロジェクトがよく分からない。

市民とのパートナーシップが進んでいる。

事業者・行政・市民の協働はあまりうまくいっていない。

中山間地域

山林地域における林業の振興により自然環境が保全される。

中山間地では、農林業の維持・健全化を図り、併せて自然環境を保全することが効果的・効率的である。

酒米の栽培、低農薬、有機栽培の促進を図る。

針広混交林により防災機能が高める森林づくりを行う。

市町村合併により自然環境が豊かになった。

自然・森関係のNPOは多い。

農産物の加工による商品の開発が必要である。

農業後継者が不足しているため、育成を図る必要がある。

森林等の整備がなされていない、悪影響を与えている。

中山間地域では、農業の維持が自然環境保全のために重要である。

中山間地域では、人が減り、高齢化したことにより荒廃している。

学習

体験型イベントを通して自然に親しむ。

自然観察など自然に触れるイベントへの参加者は多い。

里山で農業体験学習を行う。

小さい頃からの自然体験・教育が不足している。

学校など教育の場で自然環境の関心を高める取組が行われている。(ごみのリサイクルなど)

学校教育の中で環境教育がなかなか取り入れられていない。

森林学習・体験を通して森林づくり意識の向上を図る。

子どもエコクラブ事業が事業仕分けで廃止になってしまった。

人材育成

地域における環境リーダーの育成が必要である。

リーダー育成が進んでいない。リーダー層が狭く広がっていない。

活動を推進する人材が固定してしまっている。広がっていない。

環境情報

希少な動植物が把握できていない。

自然環境情報がデータベース化されていない。

自然環境保全推進員の提供データが十分に活用されていない。

ごみ

不法投棄が多い。

便利さゆえにごみの量が増加し、リサイクルの遅れがある。

しくみ

自然環境保全のためのゾーニング計画やコリドー計画が不十分である。

ゾーニング計画やコリドー計画に基づき個々の具体策をとることが効果的である。

土地利用計画に自然環境の保全・利用等に関することが十分に反映されていない。

自然環境保全のためには、環境と農林業・観光産業との連携が必要である。

公園の性格がよく分からない。一の鳥居苑地は観光課担当で、市民・観光客のスポーツの場となっている。

十分かつ有効な(科学的な)環境情報を基にした計画・政策がなされていない。

温暖化対策

地球温暖化を理解はしているが、市民一人ひとりの行動がなされていない。

市民の中に地球温暖化への危機意識が徐々に浸透しつつある。

地球温暖化対策は費用対効果が期待できない。

太陽光発電システムの設置が進んでいる。

事業所等での屋上・壁面緑化を推進する。(特に街場)

Bグループ

政策 2 - 1 豊かな自然環境の保全と創造

市民の意識・かわり

ながの環境パートナーシップ会議など協働組織の認知度が低い。

大気・水質は良好である。

合併により自然環境が増加した。

自然をどのように守り維持していくのか市民には分かりにくい。

自然に対する市民の満足度は高い。

奥山

自然環境が崩壊すると生態系が崩れる。

山林取得に対し法的規制がなく乱開発を招く。

自然は手を入れるべきではない。

市の所有森林は奥山である。

里山

里山は原生林と違い高度に管理された自然である。

高齢化により山間地には自然を守る人がいない。

木材を暮らしに活用する機会を提供する。

未利用地の山林を公有地化していく。

野生鳥獣が増え、植生(貴重種)の被害が心配である。

間伐材の活用を促進する。

野生生物が人の生活圏に出てくるようになった。

私有林の共有化を促進する。

市民が自由に入れる森(市民の森)をもっと増やすべきである。

身近な自然と言いながら、里山や河川は身近でない。

環境(森林)管理へアダプトシステムを導入する。

団体等に山の管理を任せ、ストーブの薪づくりなどに取り組んでもらう。

里

レッドデータブックが活用されていないので、普及・活用する。

クラインガルテン、サラダパークの拡大等により遊休農地を活用する。

イギリスのフットパスのように土地所有に縛られない遊歩道の整備をする。

学校林、田、畑の活用が必要である。

外来生物を撲滅する。

街

身近な森を街の中につくる。

地球温暖化対策は必要か疑問である。

公園的な自然環境造りが自然環境を崩す。

街路樹のマスの規格を変える。

社寺林や水路、ポケットパークを身近な自然に維持・再生していく努力が必要である。

自転車道路をもっと整備する。

市街地に緑・水が少ない。

街路樹を高木、低木、地被植物、落ち葉など土の連続性に配慮した規格に変える。

多様性のある街路樹を植栽する。

地下歩道橋は歩行者・サイクリストに不便である。

花苗のビニールポットがごみとなる。

田畑の植物・生き物が生息しやすい環境づくりに取り組む。

地域の自然を見直す運動をする。

商品の企画に環境団体が参加できる仕組みをつくる。

教育

教師の環境教育の体験が不足しているため、体験が必要である。

環境学習の場を多く提供する必要がある。

夏休みの一研究を兼ねた学習や体験の場づくりが必要である。

幼児教育の中に自然体験を入れる。

市民向けの環境学習は進んでいない。

市民のインタープリターを養成し活用する。

不法投棄防止などのために道徳教育が必要である。

健康・節約・趣味・おしゃれ等とセットでの気軽な環境教育に取り組む。

世代間交流を推進する。